

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070700347		
法人名	館林衣料株式会社		
事業所名	グループホーム多々良の里		
所在地	群馬県館林市木戸町539		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/10/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市富士見町小暮 704-2		
訪問調査日	H26.3.19		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年に、10周年を迎えることが出来、皆で更に目標に向かって決意を新たにしています。準永年勤続者も含め、15名。職員の定着率も大切なことと考えます。年初めにテーマを掲げ、施設長と職員で、朝礼での意見発表からスタートし、「皆、家族」を共有しながら、業務に励んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年の目標は「温かい言葉遣い、皆・家族」を掲げている。管理者と職員はケアの統一を図るため、日頃から職員間で介護の仕方等について話し合い、様々な工夫をしながらケア・サービスの向上に努めている。喜びや楽しみをもたらす食事を大切に考え、利用者の希望を献立に取り入れて調理の工夫に努めている。職員の言葉かけや対応は穏やかで、利用者の表情は明るく、伸び伸びと暮らしているように見受けられた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度初めに1年間の目標を提示している。地域密着型サービスにつなげるよう努めているが、皆家族という思いで、その人らしさの尊重に努めている。	ミニ・カンファレンスや会議等でケアの方向性を確認し、理念を共有して実践に取り組んでいる。今年度の目標「温かい言葉遣い、皆・家族」を掲げて、その人らしさの尊重に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的とは言えないが、イベント時の呼びかけ、交流や散歩途中での会話等行われている。	散歩時に近所の人々と挨拶や話をしている。野菜等を頂いたり、家へ遊びに行くこともある。地域の人に声を掛け、一緒に公園の花見に出かけた。イベントの際には地域住民に声を掛けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	区長、民生委員さんを通じ、相談の窓口になれたらと伝えてあり、いつでもどなたでも見学をと勧めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回出席の市の職員からも、出席率が良いと言われていて、積極的な意見が出されていることに感謝している。	会議は2ヶ月に1回、定期的開催されている。利用者が参加している。運営状況や外部評価等について報告を行い、地域との関わりを持ち方等の意見交換を行っている。地域住民メンバーが増員され、積極的な意見が出されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	接する機会を利用して、(認定更新等)サービスの質の向上につながるよう努めている。	利用者の報告・申請代行・相談等で、管理者が市の窓口へ出向き、担当者との連携を図っている。市の依頼により、認知症サポーター養成講座に協力し、職員が現場の声を伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に職員同士で話し合い、拘束しないケアを実践している。施錠も緩やかにして安全な自由な暮らしを支えるよう努めている。	日中・1階と2階の室内への出入口は、徘徊願望の人がいるため施錠をしている。利用者がどうして外に出たいのか、理由や行き先等を知るため、職員間で話し合いを行っている。今年度は身体拘束廃止に関する外部研修や法人内研修は実施されていない。	職員の連携で見守りの方法を徹底し、利用者一人ひとりのその日の気分や状態を捉えることで、鍵をかけないケアに取り組んでほしい。職員が禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解するためにも、定期的な研修の実施に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料を回覧し、職員全員の理解のもと、虐待はないと思うが、尊厳を守るためには常に勉強する必要があると考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今まで該当者なく、職員の周知度は低いので、学ぶ機会に努め、活用できたらと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	何事も遠慮なく話していただけるよう配慮し、要望把握に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	時折、電話連絡させていただいたり、ミニレター等も活用し、自由に話してもらえる雰囲気づくりに努めている。	利用者の要望等は、日常の会話から汲み取り、ドライブ等に出かけている。家族等からの意見・要望は運営推進会議や来訪時、電話等で聞くように努めている。隔月にミニレターを発送し、日常の写真を家族等に配布している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議でコミュニケーションを高めようとしているが、個別の提案をより多く取り上げるようにしたい。	毎月、施設長と管理者、職員全員が参加をして職員会議を実施している。統一のケアを行うため、介護の仕方等の話し合いを行っている。職員の意見や提案等を聞き、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心等も目標提示しているが、環境条件等で厳しい面もあり。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会や講演会には出来るだけ全員が受けられるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	なかなか機会を作る時間の余裕がないが、交換研修には積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの十分な情報を得て、本人の穏やかな生活を支援できることを目標にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを理解しながら、何でも相談していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な時も、落ち着いて、両者の感情面にも正しく対応したいと思っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	皆家族という理念のもと、人生の先輩であるという尊敬の念を常に心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の様子を伝え、家族とのパイプ役として協力できることが多くなっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切に思っていることをなるべく聞き出すようにして、外出も勧めている。	友人・知人・家族等の来訪時には、居室でゆっくり過ごしてもらえるよう配慮している。家族等との会話から、昔の人柄や生活の情報等を得て、ケアに活かしている。行きつけの美容室へ送迎している。神社の参拝へ出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なるべく、職員も会話に加わり、輪が保てるよう、時には別の話題を提案したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時に、写真が出てきて届けたり、電話でお話できたり、在宅のサービスにつなげたりしている。家族から退所後、訃報をいただくこともあり。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	検討課題は、個人ノートを活用して、観察、気づきを記録し、検討できるようにしている。	利用者とのコミュニケーションを大切に、本人の話をよく聴いたり、表情や行動等の中から、思いや要望を汲み取るようにしている。家族等からも情報を得て、職員間で共有しながら、日々のケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、生活歴を記入していただき、さらに日々の様子から話を伺ったりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が担当を持ち、ケアプランを中心になるべく接する時間を多くするよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間では常に話し合っているが、家族と十分な時間が取れていない人もいる。	本人・家族等から思いや意向を聞き、職員間で話し合い、意見や気づきを反映させた介護計画を作成している。月1回のモニタリング、3ヶ月毎に定期的な見直し、状態の変化に応じて随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録も1週間時系列で記入し、要点を日誌にまとめ、共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスへの参加、24時間いつでも面会可能を伝え、希望あれば、美容院への送迎もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの神社、公園への散歩時、話しかけ、飲み物、野菜をいただくこともあり。訪問理容サービスも利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望を優先し、かかりつけ医を決めている。家族同行もあり、往診医にも毎週来てもらっている。	本人・家族等の希望するかかりつけ医となっている。家族同行の受診・通院ができない場合には、職員が代行して、受診結果を報告している。協力医の往診が2週に1度行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の気づきを把握し、状態変化に応じた対応を心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はなるべく多くの情報を伝えるようにしている。職員も時間のとれる範囲で見舞いの回数を多くし、スムーズな退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、医者、職員との話し合いも記録し、家族の心のケアも大切と考えている。随時、意思確認にも取り組んでいる。	契約時、本人・家族等に「看取りの指針」を説明している。段階に応じて、随時本人・家族等の意向を確認し、主治医及び関係者全員で連携をとり、家族等の意向に沿った支援に取り組んでいる。看取りを実践して、看取りの記録を残している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会の活用に努めている。体験時は、職員全員が共有できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の定期火災訓練は行っているが、地震、水害時想定も必要と考えている。	5月、日中想定自主訓練(通報・消火・避難誘導)を実施している。11月、日中想定で消防署立会いの総合訓練(通報・消火・避難誘導)を実施している。近所の人も参加している。災害時の備蓄は用意されている。	年2回、日中想定訓練を実施しているが、1回は夜間を想定した訓練をされるとよいのではないかと。利用者や職員が確実な避難方法を身に付けられるように、避難誘導訓練の回数増加に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の人格を良く知ること、瞬時の声掛けに対しても工夫している。排泄に関しては特に気を付けている。	一人ひとりの人格をよく知ること、言葉かけの工夫をしている。排泄時の言葉かけや対応については、特に気を付けている。職員会議で「言葉の大切さ」について話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	望むことを聞き入れ、行動を共にするなかで、更に深く関わられるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者優先を職員同士、常に話している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪は乱れてないか、服の汚れはないかなど、気を付けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は職員全員が同席し、細かいことにも配慮し、楽しくできている。メニューを読み上げたり、お盆拭きなどは、していただいている。	利用者はお盆拭きやおしぼり配り等を職員と一緒に、同じテーブルを囲み和やかな雰囲気ですべて食事をしている。誕生日には、本人の希望に合わせた献立を提供している。毎日、プルーンやセンナ茶、ヨーグルトを摂取するようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録し、確認している。食べ易い工夫も個々に行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必ず声掛けして、行えている。汚れがないよう、職員も確認に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の様子から察知したり、記録のパターンを共有し、自尊心に配慮しながらスムーズな排泄を目標にしている。	排尿・排便の様子を記録し、個々の排泄パターンを把握して言葉かけやトイレ誘導を行い、オムツの使用を減らせるよう努めている。排泄介助や失禁時の対応には、十分に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘には常に気を付けている。楽しく体を動かす工夫を続けている。毎日センナ茶、プルーン、ヨーグルト提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員との会話を楽しみながら、くつろげるよう心掛けている。拒否の場合には、声掛けに工夫している。	日曜日を除き、毎日入浴できる体制になっているが、一人ひとりの入浴日や時間帯が決められている。入浴拒否の場合には、職員と一緒に入浴したり、言葉かけの工夫、ゆず湯等で楽しめるよう工夫をしている。	入浴の曜日や時間帯を決めず、一人ひとりの気持ちや習慣に合わせて入浴を楽しめるよう、個々に沿った支援をしてほしい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝付けない場合には、温かい飲み物と一緒におしゃべりする事もあり、日中の活動を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報もすべて全員回覧している。手渡し、間違いのないようにして、観察での気づきに努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野をつかみ、力が発揮できることをお願いし、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩に心掛け、気候を利用してなるべくドライブなど多くしていきたい。	周辺への散歩や隣接するデイ・サービスへ出かけ、イベント等に参加している。ドライブ・季節毎の花見・神社への参拝・美容室・外食等へ出かけており、家族等と協力しながら戸外に出て気分転換が図れるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金があることを伝え、希望があればいつでも話して下さいと、安心感を大切にしている。個人で所持している人もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話利用して下さいと、双方に伝えてあり、利用できている。年賀状も毎年出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月毎に、飾り物を替え、写真、歌詞も見易いよう掲示している。安全な範囲でお花等も多く飾っている。	玄関先にプランターを置き、季節の花を植えている。室内には季節感のある飾りものをしたり、日めくりカレンダー・行事の写真・歌詞等を掲示している。テーブルに花を飾り、大きなソファやテレビ等が設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室で過ごす時間も大切にしている。写真、誕生カードなども飾っている。テレビなどの不具合にもすぐ対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく使い慣れた物をお願いしている。時に配置換えの提案する事もあり。家族ともゆっくりしていただけるよう配慮している。	各居室には、テレビ・鏡台・衣装ケース・ラジオ・時計・家族の写真等、馴染みのものや好みものが持ち込まれ、落ち着いて過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札をかけ、顔写真も掲げてる。障害物には常に気を付けている。難聴の人には簡易ボードで筆談するよう努めている。		